

魚病対策指導

～安全・安心な養殖魚を提供するために～

●魚類養殖が盛んな三重県

三重県では、波の穏やかな熊野灘の内湾を中心にマダイやブリ、マハタ、クロマグロ、シマアジ等の海産魚の養殖が盛んに行われています。



内湾の魚類養殖場



元気良く餌を食べる養殖マダイ

●魚も病気になります

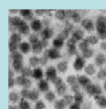
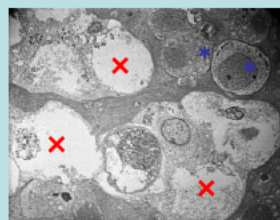
人間や家畜と同じように魚も病気にかかることがあり、養殖魚に病気が発生すると、業者に大きな損失を招きます。



えらに寄生したエラムシ(ピバギナ・タイ:右写真)の吸血作用により、えらと内臓が貧血したマダイ



白点虫の体表寄生を受けたトラフグ



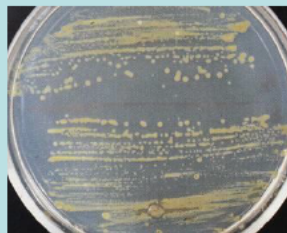
ウイルス性神経壊死症のマハタ病魚の神経組織
〔ベータノダウイルス(右写真)の感染により、神経細胞が崩壊、消失している(X)(*は正常細胞)〕

●魚病診断および対策指導

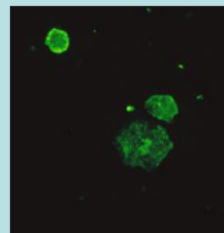
当県では、養殖業者から持ち込まれた病気の魚の診断を行っています。飼育状況の問診を行った後、解剖、顕微鏡による寄生虫検査、細菌やウイルスの培養検査等を行い、病気の原因を明らかにして、治療対策や飼育管理技術の指導を行います。



病魚の解剖



寒天培地に生育した病原菌



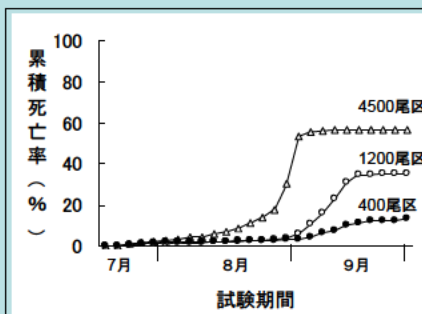
顕微鏡下で蛍光を発するマダイイリドウイルス感染細胞

●魚病対策は予防が第一

当県では、マダイ稚魚に大きな被害を及ぼすマダイイリドウイルス病をモデルに、生け簀への収容尾数の抑制やビタミンの投与、発病群の絶食などの飼育管理技術が被害軽減に有効であることを明らかにしており、魚病対策指導に役立っています。

また、人間のインフルエンザやはしかなどの予防接種と同様に、魚でも近年さまざまなワクチンが開発されているので、こうしたワクチンの投与指導も行っています。

このように、適切な飼育管理により病気に強い健康な魚を育て、安全・安心な養殖魚を提供するためのお手伝いをしています。



異なる密度で野外飼育したマダイの死亡状況

〔1辺2mのいけす3面にマダイを所定の尾数収容して73日間飼育した結果、飼育尾数が少ないほどマダイイリドウイルス病による死亡率は低かった。〕



ブリ稚魚へのワクチン注射